

情報元：南海日日新聞社  
日付：令和3年12月15日

## 冲高エイサー部が6連覇

### 郷土芸能専門部大会

### 高校総文祭県予選、奄美初開催

2022年度の「第46回全国高等学校総合文化祭東京大会」出場校選考を兼ねた「第16回県高等学校文化連盟郷土芸能専門部発表大会」（実行委員会主催）が14日、奄美市名瀬の奄美文化センターで開催された。奄美群島での開催は初。伝承芸能、和太鼓の2部門で、県内9校の生徒約90人が勇壮な演舞、演奏を披露した。伝承芸能部門は沖永良部高校エイサー部が6年連続8回目、和太鼓部門は鹿屋農業高校和太鼓部が2年連続8回目の最優秀賞。両校は全国総文祭の県代表出場校に推薦される。

県高文連郷土芸能専門部発表大会は、高校生による郷土の文化継承を推進し、各校生徒相互の交流を深めることが目的。新型コロナの影響により、会場に集まる形式は2年ぶり。23年度、全国総文祭鹿児島大会・郷土芸能部門が奄美市で開かれることを見据え、今大会も同市で開催した。

伝承芸能部門には、群島内から3校が参加した。奄美高校郷土芸能部は、伝統楽器演奏と島唄の演目「奄美の音色」を披露。徳之島高校藏越エイサー隊は「煌々（きらめき）」、沖永良部高校エイサー部は「うむい（想い）」と題し、琉球由来のエイサーを踊った。

沖高エイサー部は生徒20人で、和泊町指定無形文化財「獅子舞」と伝統踊り「正名ヤッコ」、エイサーを組み合わせ物語風に展開。最優秀賞を受け、2年の村上種乃花部長は「うれしい。全国へ向け、発声を強めるなど全体的に磨き上げていきたい」と語った。

2部門全体の講評として、審査委員長の原教育庁高校教育課、川畑美沙指導主事は「文化的背景を踏まえた表現を、少人数でも演

出に工夫を、他校から学ぶことも大切」など改善点を指摘。「熱意は感じた。郷土の文化継承を担い、活動を

を続けてほしい」と激励した。

大会では各校発表のほか、演出を学ぶワークショップや生徒交流企画もあった。地元開催で、大会運営にも携わった奄美高校郷土芸能部2年、久保ひかりさんは「今年は各校生徒が集まれて良かった。交流できて楽しかったし、学びも多かった」と振り返った。



県高文連郷土芸能専門部大会の伝承芸能部門で6年連続最優秀賞に輝いた沖永良部高校エイサー部の演舞。14日、奄美市名瀬の奄美文化センター